ス　モ　ン　問　題　年　表

東京大学医学部保健社会学教室

年	医学 患者発生の経過	事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考 （公害・薬害・医療事故等）
					１８９９～１９００年 キノホルムはじめて製造される。 昭和８年　この年キノホルム、赤痢アメーバ患者に使用されたとの記録あり。 昭和１４年　日本薬局方に整腸剤キノホルム基礎的製剤として収載。 この年6月 キノホルム我国で生産開始。 昭和２８年　エンテロ・ヴィオフォルム輸入発売開始。
１９５５ （昭30）	・　散発的に患者発生の報告 ・　和歌山県、三重県で腸疾患加療中に神経炎症状や下半身麻痺症状を併発した患者が数例発生し、初発は３０年前後と推定される。 ・　第６１回日本内科学会シンポジウム「非特異性脳脊髄炎症」の全国例年次別集計によれば、２８年以前に数例、２９年以降少数であるが毎年数例発病、次第に増加がみられた。				７～８　西日本一帯に人工栄養児の奇病が集団発生する－森永砒素ミルク中毒事件。 ９－　徳島地方検察庁、森永を告発（刑事裁判）。 ９－　森永ミルク被災者同盟全国協議会結成。 １０－ 森永砒素ミルク中毒事件－５人委員会が発足。
１９５６ （昭31）	・　東北６県での確診例の初発は３１年に２例あり、				5－1　水俣病、原因不明の奇病の発生として公表さ

	それ以前の発症はみとめられず、以降３７年頃まで２０例以下であったと、東北大花籠らの報告がある。				れる。この年だけで５０名発生。 １２－ 富山県医学会にて、萩野医師、イタイイタイ病の鉱毒説を発表。
１９５７（昭３２）	・ 山形、京都、名古屋などで患者が発生し始める。				８－ 大日本製薬サリドマイドの製造許可申請。 １０－ 厚生大臣サリドマイド製造許可
１９５８（昭３３）	・ 北海道ではじめて患者が発生。 ・ 東京地区ではこの年に１例が観察され、その後次第に増加。 ・ 徳島では、３３年以前に３名の患者発生があり、以後３７年頃まで患者数は除々に増加。	６・２８ 和歌山医大第二内科・楠井ら、第６３回近畿精神神経学会にて、神経炎様症状を伴った大腸炎の症例を報告。（初のＳＭＯＮの学会報告と考えられる）。			８－ 水俣病患者家庭互助会結成される。
１９５９（昭３４）	・ 山形県米沢市、山形市で患者が発生しはじめる。	９・２４ 東北大鳴子分院内科・菅田ら、第３９回内科学会東北地方会にて、下痢が前駆した脊髄炎の３症例を報告、温泉治療が著効ありと発表。			８－ 水俣の漁民、新日窒工場に乱入。水俣病に原因する漁獲激減に抗議のため。 １１－ 水俣にて、漁民、再度工場に大乱入。
１９６０（昭３５）	・ 埼玉戸田地区で１例の初発患者をみる。	１０.１５ 県立山形病院清野ら、第４２回内科学会東北地方会にて、胃腸症状に続く脊髄炎様症状を呈した１２例を報告、多くは下肢の感覚異常に始まり、視力障害・発語障害に進む例もありと発表。 １２.３ 三重医大高崎内科・藤田ら、第６１回内科学会東海地方会にて、慢性腸炎の治療中下半身麻痺と知覚障害を来たした			８－ 朝日訴訟提訴。

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1960（昭35）		2例を報告、同じ場で西村ら（津市遠山病院）阿部（名古屋赤十字病院）竹内（岐阜医大）も同様の症例を追加。 高崎内科の症例は翌年の内科学会雑誌に原著として発表される。			
1961（昭36）	・北海道では36年以降釧路市を中心に集団発生、釧路病といわれる。 ・36年以前の初診確実例60、容疑例24、合計84名。（45年度スモン患者全国調査）	内科学会地方会で、清野ら、末次ら（県立鹿屋病院）症例報告。			3－ 水俣にて胎児性水俣病患者の存在確認される。この年頃より、四日市にぜん息患者多発。 11－ レンツ報告（奇形とサリドマイド）。 大日本製薬は、科学的根拠なしとして、従前どおり宣伝、販売を継続。
1962（昭37）	・岡山県井原市に男1、女1計2名患者が発症し、以後42年に急激に増加。 ・山形では37、38年に患者発生数が最高となり、以後減少傾向となる。 ・室蘭で4例発生、その後増加の傾向あり。 ・釧路市で患者数ピークとなる。 ・京大第3内科の入院患者数は20例以上に達しピークとなる。 ・この年の初診確実例31、容疑例28、合計59名。（45年度スモン患者全	4.5 第3回日本臨床神経学会（愛知）シンポジウム"Myeloradiculoneuritis" ・名大第一内科・安藤、感染症や胃腸障害に続き運動・知覚障害を生じた症例を"polyradiculoneuritis"ないし"Myeloradiculoneuritis"として発表。 ・関東逓信病院内科・加瀬らも同様の症例を報告。 同学会にてSMONと思われる症例が、九大勝			5－ 大日本製薬、新聞にサリドマイド奇形児の問題が報道されるに及び、ようやく出荷停止に（市場にあるものは放置）。 厚生省科学研究班（森山豊班長）発足する。 6－ イタイイタイ病の原因は神岡鉱山のカドミウムであるとする説を、萩野・吉岡連名にて整形外科学会で発表。 9－ 市場にあるサリドマイド製剤を回収される。このあとも38年5月まで札幌、大阪、横浜の薬局

	国調査）	木内科をはじめ、慶大、虎の門病院、日本医大、岡山大から報告さる。 この年、谷森ら（関西労災病院）前川ら（京大内科）伊東ら（釧路市立病院）の症例報告、以後内科学会、神経学会を中心に症例報告続く。			では販売続行。
１９６３（昭３８）	・東北６県では、３８年頃から急激な増加、５０例に達する。 ・山形県米沢地方で多発し、１９例となる。 ・岡山県井原市の近接地芳井町に患者３名初発。 ・岡谷市で、結核の長期入院患者が次々と発病、受持医師２名、さらに医師の家族にも発病者が出る。 ・徳島で患者が急増（男３０、女３９、計６９名）以後４４年迄毎年４０～７３名の発生が続く。 ・千葉県で数例の発生をみる。 ・３８年の初診確実例５６容疑例４０、計９６名。（４５年度スモン患者全国調査）	4.4　三重医大・高崎ら第３７回伝染病学会にて、ＳＭＯＮと思われる２８症例を報告、「腸管系ウイルスの感染が想像される」と述べる。 10.12　徳島市日比野病院・日比野ら、徳島市周辺における脊髄炎の家族内及び院内発生１１例について「日本医事新報」誌に発表。「今後なお伝染増加の恐れが多分にあるものと考えられる」と述べる。			5－　第３回結核実態調査（要医療患告２５０万人）。 6－　サリドマイド児をかかえる家族らが、各地で訴訟を起し始める。 7－　四日市にて「公害をなくす市民運動」開催。 10－ 徳島地裁で、森永砒素ミルク中毒事件　第１審刑事判決あり、　森永無罪と決す。　徳島地検、高松高裁に控訴。
１９６４（昭３９）	・北海道空知炭田、札幌、小樽で患者発生ピークとなる。 ・埼玉県戸田地区で４６	3.22　第５回日本神経学会（東京）、黒岩ら（九大）、渡辺（東女医大）などの症例報告に対し、	・厚生省医療研究助成金による"下痢を伴う脳脊髄炎症の原因および治療の研究班"（前川班）が発足する。		2－　サリドマイド禍、森山報告出る。 4－　四日市で、３日間の激しいスモッグのあと、

年	医学事項		行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考
	患者発生の経過	調査研究の経過			（公害・薬害・医療事故等）
1964（昭39）	例の地域的多発、「戸田奇病」と呼ばれる。 ・ 福岡県浮羽町に集団発生。 ・ 東京地区でも患者数増加。 ・ 39年の初診確実例31、容疑例130、計161名。（45年度スモン患者全国調査）	「下痢の治療が麻痺の原因となるのではなかろうか」との発言あり。 5.7 第61回日本内科学会（京都）シンポジウム"非特異性脳脊髄炎症" ・ 楠井、全国の患者実態調査の報告（昭和34年頃から急激に増加。剖検24例を含む823例について分析） ・ 東大脳研・椿ら、本症をSubacute myelo-optico-neuropathy と呼ぶ。 ・ 1つの症候群か、疾患単位かで意見が別れる。 ・ 日比野ら、本症は伝染性疾患の疑い濃厚であり、患者の隔離制度の必要ありと強調。 ・ 楠井、患者の使用薬剤を調査したが共通した因子を証明し得ずと報告。 10.3 東大中尾内科・豊倉ら、第10回内科学会関東地方会にて、戸田地区の多発例45症例につき報告。 11.15 久留米大内科・奥田、同微生物・新宮ら、	（39年度30万円、40年度36万円、41年度140万円）		ぜん息患者死亡。 5－ 学術会議シンポジウム、食品中の農薬残留問題をとりあげる。 6－4 新潟に水俣病患者発生（この時点では病名不明）。

		第６４回九州医師会学会で「患者の糞便等からエコー２１型ないしその類縁のウイルスと思われるagentを分離した」と報告			
１９６５（昭40）	• 埼玉戸田地区で新発生は４名。この年を頂点に減少の傾向を示す。 • 北海道室欄で３７例の多発をみる。また、釧路では患者数が再びピークとなる。 • ４０年の初診確実例１８２、容疑例112、計２９４名（４５年度スモン患者全国調査）	3.5 第６回日本神経学会（京都） 前川、特別講演"最近流行の下痢を伴う脊髄疾患の命名について"で「伝染性索脊髄炎」または「伝染性白質脊髄炎」なる病名を提唱。 • 独立した１つの疾患単位とする意見強まる。 6.6 新宮ら、第６５回伝染病学会西日本地方会にて、「患者の糞便・血液および髄液よりエコー２１型ウイルスを分離、スモンの病原ウイルスであろうと考えられる」と報告。 12.11 東大脳研・塚越ら、第１７２回内科学会関東地方会にて、東京（東大）戸田（中島病院）室欄（日本製鋼所病院）岡谷（塩嶺病院）４地区における症例を比較検討し、本症は特異な症候群と考えるのが適当と報告。			2－ アンプル入カゼ薬で死亡者発生。 3－ サリドマイド児登録、医療費補助はじまる。 4－ 四日市に、被害者による「四日市公害患者を守る会」結成される。 5－ 四日市で公害認定患者第１号きまる。 6－12 新潟水俣病の発生、新聞発表となる。 8－25 新潟県民主団体水俣病対策会議結成。 11－ 厚生省、アンプル入カゼ薬の製造中止を指示。 12－ 新潟水俣病の被害者、阿賀野川有機水銀被災者の会を結成。
１９６６（昭41）	• 呉市ではこの年最も流行が激しく６７名発病、以後順次減少する。	5. 国立予研・甲野、「内科」誌に、新宮説を裏づけるデータは全くえられ			3－ 森永砒素ミルク中毒事件、高松高裁は、第１審の判決を破棄、差し戻

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1966（昭41）	• 室蘭では41年3月以後急減。 • 41年の初診確実例323、容疑例155、計478名（45年度スモン患者全国調査）	ていないと報告、SMONはSlow, latent and temperate virus infectionであるという作業仮説を発表。 6.10 第59回内科学会東北地方会（仙台） シンポジウム"非特異性脊髄炎（SMON）" • 東北大脳研・栃原、地域的流行例および一病院内での発生例についての確実な診断と詳細な検討の必要性を強調。 • 東北大眼科・桑島、SMONとされている中に他疾患が混在していることを例証、ウイルス説を批判し、病型の早期鑑別診断の重要性を指摘。 6.22 厚生省班研究"腹部症状を伴う脳脊髄炎症"参加班員によるシンポジウム（京都） • 新宮、ウイルス分離を報告。 • 甲野、新宮説に反論。			しを決定。森永、最高裁に上告。 5－ 農林省、水銀系農薬の非水銀系への切替えを通達。 7－ 四日市で公害患者自殺。 9－ 厚生省イタイイタイ病研究班、イタイイタイ病の原因はカドミウム＋αとの見解を出す。 11－ 富山県婦中町にイタイイタイ病被害者による「イタイイタイ病対策協議会」結成。
1966（昭41）		7.4 第7回日本神経学会（北海道） • 九大脳研神経内科・黒岩ら、感染以外に栄養因子を含め他の原因も考えられると報告。			

		• 国立呉病院内科・大村ら、下肢振動覚の測定により早期診断ができると報告。			
１９６７（昭４２）	• 東北６県ではこの年約９０例に達し最高となる。そのうち２３例は湯沢地方に集中。 • 岡山県井原市で患者数爆発的に急増（男５、女２７、計３２名）し、また芳井町でも１０名となり、両地区とも増加の傾向あり。 • 岡山県湯原町にも男２、女５、計７名の初発を数える。 • ４２年の初診確実例７９２、容疑例４８４、計1,２７６名（４５年度スモン患者全国調査）。	2. 岡大第２内科・平木ら、昭和２７年から４１年６月迄に岡山市周辺の病院に入院、ＳＭＯＮと診断された５０名についての観察を「綜合臨床」誌に発表。（発病前の使用薬剤も調査。発病に意義なしとする）。 4.4 第８回日本神経学会（愛知） • 大手前病院内科・野木らの「腹部手術とSMON発現との因果関係について検討を要する」との報告に対し、東北大・桑島「手術よりも薬剤の影響が考えられないか」と質問。 • 呉病院・大村ら、SMONの腹部症状は本症の一分症と考えられると報告。 5.27 第４回ウイルス学会九州支部総会 シンポジウム"腹部症状を伴うミエロニューロパティ" • 呉病院・大村、集団赤痢発生後患者２６名中５名がスモンと診断されたが、治療薬剤に一定の傾	・"下痢を伴う脳脊髄炎症の原因および治療の研究班"（前川班）への医療研究助成金打ちきり。	6.8 米沢地区スモン患者同盟結成される。 7.8 米沢地区スモン患者同盟、厚生省へ陳情書提出（原因究明・予防治療法の明示・リハビリ施設の設置・治療費負担）。 11.9 宮城県スモン患者同盟結成される。 11.19 東北放送「スモン病と闘う人々」を放送。 12.1 埼玉・中島病院スモンの会結成される。	4—18厚生省特別研究班、新潟水俣病の原因を工場廃水と断定。 5.24 最高裁、朝日上告審に対し「この裁判は朝日氏の死亡で終った」と打ち切り判決。 6—12新潟水俣病の被災者訴訟を提起。 6— 四日市で、２人目の公害患者の自殺発生。 8— 京都地検、サリドマイド禍の刑事訴訟を不起訴処分。 9—1四日市の公害患者、訴訟を提起。 11.1 厚生省、原爆被爆者の実態調査結果を発表。被爆者団体、調査不備と反論。 11—30四日市にて公害患者を支持する会発足。

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
		向なしと発表。 • 新宮、ECHO21型ウイルスを病因とする。 6.24 札幌医大宮原内科・星川ら、第86回内科学会北海道地方会にて、SMON患者1例の髄液ならびに糞便よりコクサッキーA4型ピールスを検出したと報告。			
1968（昭43）	• 岡山県井原市の患者発生数は男20、女39、計59名。芳井町では15名となる。 • 岡山県湯原町では男11、女34、計45名の急激な増加。 • 北海道小樽市に再び多発の傾向。 • 43年の初診確実例1,110、容疑例633、計1,743。（45年度スモン患者全国調査）	4.24～ 第9回日本神経学会（新潟） • 慶応大神経科・中沢ら、「健常人の糞便より検出されない、スモン患者に共通のウイルスを発見した」と報告。 • 阪大・佐野、「SMON」という病名を批判、桑島も他疾患が混在しているという理由で同調。 • 国立熱海病院・田坂ら、治療にパントテン酸カルシウムの注射が有効と発表。 • 名大・安藤、SMONの院内発生について報告。 • 九大神経内科・三好、患者の多くは過去に腹痛を訴えていたと報告。 4.30 岡山井原市民病院・高木ら、井原地区における多発例23例の症例	10－ 岡山県湯原町長、スモンによる町財政の困窮の為、対策を県に陳情する。 11.11 岡山県「岡山大学スモン調査研究会」を設け、研究を委託する。（43年度85万円） 11.12 宮城県スモン病対策会議、初会合を開く。 12.3 宮城県、スモン病調査費80万円を、補正予算の中に計上する。	3－ 宮城県スモン患者同盟、会報「病床たより」第1号を発行（以後、年3、4回発行） 5－ 岡山県新見市スモン患者励し合いの会が結成される。 8.2 毎日新聞紙上に、群馬の患者より"スモン患者間でのなぐさめの手紙を交換したい"との投書がある。 8.25 （8.2）の投書の呼びかけで集まった書簡をもとに、「スモンの広場」（患者家族交換情報）ができる。 前橋スモン患者家族の会結成される。 10.9 宮城県知事、大学病院を訪問患者からの陳情を受ける。（原因究明・リハビリ施設・医療費	1－ イタイイタイ病対策会議結成。 1－12 水俣病対策市民会議結成。 3－9 イタイイタイ病患者訴訟を提起。 4－ 種痘禍の北海道の被害者ら、厚相を殺人で告発。 5－ 医師法改正・インターン制度廃止。 5－ 厚生省、イタイイタイ病の原因は三井金属神岡鉱業所と断定する見解を発表。 8.8 札幌医大で日本で初の心臓移植、83日目に死亡。 9－26 政府、水俣病と新潟水俣病の原因に関する見解を発表。（水俣病はチッソ（株）に原因、新潟水俣病は昭和電工の工場

		を「岡山医学会雑誌」に発表。 12.1 第22回伝染病学会西日本地方会（岡山） ・ 岡大第一内科・島田ら、井原地区におけるSMONの多発および無菌性髄膜炎の流行について報告。 ・ 岡大第三内科・大藤ら、岡山北部一地方におけるSMONの集団発生を報告。		補助・物療士の養成） 12— 岡山県湯原町スモン友の会結成される。	廃水に基盤） 10— カネミ米ぬか油症事件発生 10— ねたきり老人40万人（全国調査） 10— 四日市に公害認定患者の会発足。 11— 四日市に公害病患者を励ます会、公害をなくす四日市市民協議会発足。
1969 （昭44）	・ 岡山井原市では男11、女23で計34名、芳井町ではこの年に患者発生はみられず。 ・ 岡山湯原町で29名に達し最も多く、以後患者の発生をみない。 ・ 44年の初診確実例1,229、容疑例759、計1,988名。（45年度スモン患者全国調査）	3.26～ 岡山大衛生・大平ら、第39回日本衛生学会（福岡）にて、岡山県湯原町における疫学的研究の結果、「伝染性である可能性が強い」と報告。 5.7～ 第10回日本神経学会（福岡） ・ 慶大・中沢ら、SMON患者より分離したビールスの病原性について報告。 ・ 関東労災病院・田坂ら、再びパントテン酸注射療法の効果を強調。 ・ 東京第一病院神経科・越島ら、全国各地の国立病院での症例396例について報告。 9.2 スモン調査研究協議会が結成され、スモンの病因と治療に関する研究が委託される。臨床・病理・病原・疫学の4班。 第1回総会（岡山）	2— 厚生省防疫課長、岡山現地調査。 3— 衆院産業公害対策特別委員会でスモン問題をとりあげる。 4— 厚生科学特別研究費500万円をもって"全国のスモン患者の実態ならびに病原に関する研究"にあたる。（スモン研究班が発足する。） 5— 岡山県スモン対策協議会が発足する。（44年度138万円、45年度1,373万円。） 8.4 長野県スモン対策委員会発足する。 8.6 山形県スモン対策委員会発足する。 8.6 科学技術庁、特別研究促進調整費3,000万円を"スモンの病因と治療に関する研究"にあてることを決定。	3.10 スモン患者、自殺（岡山） 3.15 岡山県井原市に、"スモンから市民を守る会"が結成される。 4.7 "スモン身障者を守る会"患者の代表が集まり、厚生省に陳情する。 NHK－TV時の動きで「スモン問題」を放映する。 4.23 兵庫の患者が、"患者同士手をつなごう"と呼びかける。（神戸新聞） 5.7～13 河北新報、スモン特集を7回にわたり掲載する。 5.24 長野県下で、こだま会（患者と家族の会）が結成される。 6.10 長野県こだま会、厚生省へ陳情書を出す。 6.15 「スモンの広場」第1号が発行され、全国的	2— 森永砒素ミルク中毒事件、最高裁は森永の上告を棄却、徳島差し戻し裁判を命ず。 2— カネミ油症患者、訴訟を提起。 2.17 厚生省の薬事課長補佐が新薬承認で収賄、逮捕される。 3.29 厚生省の新薬汚職事件で同省保健所課長が自殺。 4.4 東大病院の高圧酸素タンク爆発、医師と患者ら4人死亡。 4.15 水俣病を告発する会発足。 5— 千葉大付属病院の採血ミス事件（4.27）表面化（6.7献血の花井陽太郎さん死亡）。 5— 不顕性水俣病患者、熊本大学により発見される。

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1969（昭44）		・ 中沢ら、中沢ウイルス（仮称）を分離したと報告。 ・ 札幌医大内科・宮原ら、コクサッキーA群ウイルスを分離したと報告。 9.6 新潟大脳研・椿ら、第30回神経学会関東地方会にて、ATP－ニコチン酸点滴療法を報告。 10.28 第27回日本公衆衛生学会（岡山）シンポジウム"ウイルスをめぐる疫学の諸問題"で、岡山大公衆衛生・緒方、同第一内科・島田、同第三内科・太田ら、岡山での疫学調査報告。（家族・隣人からの発病多い→ウイルスによる感染の疑い） 11.22 「下痢を伴う脳脊髄炎症の原因および治療の研究班」（いわゆる前川班）、班員が経験した患者の症例の疫学調査結果を「日本医事新報」誌に発表。	9.2 厚生省科学特別研究費と、科学技術庁特別研究促進調整費でもって、スモン調査研究協議会が結成され、第1回総会が岡山で開かれる。 9.3 厚生省 公衆衛生局長、岡山県内の多発地を視察してまわる。 9.16 岡山県、県下への労働力供給県に対し、スモンは伝染しないとの文書を送る。 10－ 和歌山県スモン対策協議会発足する。 10－ 厚生大臣、呉市で患者の実態を視察してまわる。 10.24 京都スモン対策協議会発足する。 12.2 東京都議会でスモン対策に関して質疑が行なわれる。	な患者の交流が呼びかけられる。 6.20 長野県こだま会、スモン対策で県へ嘆願書を提出する。 7.7 "私の体を研究に使って"との遺書を残し、スモン患者が自殺。（57才、女・・・・京都） 8.17 NHK－TV、報道特集"スモン病をさぐる"を放映する。 9.3 NHK－TV、スタジオ102で"スモン問題"をとり上げる。 9.6 兵庫スモンを考える会、初会合を開く。（患者と、県社協、市民の集り） 9.10 山形スモンの会結成される。 9.12 秋田スモン患者の会結成される。 9.13 全国スモンの会結成準備会が開かれ、組織の方法、会の目的等が話しあわれる。 9.21 岡山、湯原スモン病対策町民会議結成される。 10.1 広島県スモン友の会、結成される。 10.2 全国スモンの会結成準備会。	6.14 熊本の水俣病患者、チッソ（株）に対し訴訟を提起。 6.23 国連、環境問題をとりあげる。 7～ "食品添加物"の安全性社会問題化。 7.10 厚生省DDT、BHCなどの新規許可の一時中止を決定。米国農務省措置への対応。 7.15 京都検察審査会、42年のサリドマイド禍不起訴処分を不当とし、地検に再調査を要求。 8.25 カネミ米ぬか油中毒事件で、カネミ倉庫本社の6人、書類送検となる。 10.18 米国、厚生教育長官、チクロ含有食品、飲料禁止令を出す。 10～ 食品業界にチクロ使用自粛ひろがる。 10.29 厚生省、"チクロ"を含む食品、医薬品の製造・加工の禁止と市販商品の回収を決める。 10.30 阪大丸山、日本公衆衛生学会にて、14年前の森永砒素ミルク中毒事件の追跡調査の結果、後遺症ありと発表。 11.30 森永ミルク中毒の

				1018～26 山陽新聞、特集"スモンを追って"を8回にわたって掲載する。（45年2月、6月にもスモン特集記事を組む） 10.30 スモン患者、自殺（大阪） 10.30 不治の病いと思いこみ若いスモン患者、自殺（25才、男・・長野） 11～ マスコミの慎重さを欠く報道を批判する。患者を中心とした新聞投書があいつぐ。 11.3 兵庫で、スモン対策推進をはかる市民運動の呼びかけが行なわれる。（署名、カンパ、兵庫スモンを考える会） 11.9 長野県スモンの会結成される。 11～ 紀南スモンの会、結成される。（和歌山県） 11.26 全国スモンの会結成大会が東京で開かれる。（全国各地から約200名の患者参加。原因究明、治療法の確立を訴え、患者同士の励し合いの場とする。） 11.26 スモン老人自殺（67、女・・佐賀） 11.27 NHKラジオ、午後のロータリーでスモンをとりあげる。 11.28 NHK、TV「こんに	子どもを守る会、被害者側の全国組織として結成される。 12.15 牛乳に農薬残留の事実が判明、問題となる。 12.15 大阪国際空港の航空機騒音に悩む住民、国を相手に訴訟提起。

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害、医療事故等）
				ちは奥さん」で、話題ースモン患者の訴えーをとり上げる。 12.3 スモンの老人自殺（74、女‥‥宮城） 12.20 兵庫スモンの会結成される。 12.23 治療法を早くと遺書残し患者自殺（54、男‥‥茨城） 12.25 全国スモンの会理事会。	
1970（昭45）	・ 岡山県井原市にキノホルム中止後、新患者の発生は4、5、8、9、10月に各1名、計5名ありと岡大・島田ら報告。 ・ 45年度初診確実例747、容疑例388、計1,135名（45年度スモン患者全国調査）	2.6 京大ウイルス研・井上SMON患者から新型ウイルスを検出したと発表。SMON病ウイルス感染説強まる。 2.7 井上、医学のあゆみに「スモン患者糞便より高率に分離された新しいウイルス」を発表。 ・朝日新聞座談会「スモン対策にもっと力を」にて東大・豊倉、国立予研・甲野、厚生省村中、ウイルス説なお追試が必要、接触で感染とは限らぬ、スモン病は不治の病気ではない。早期発見・早期治療、安静が大切と語る。 2.7 岡大島田、脳血管拡張剤がスモン治療に効果ありと発表。	1.30 昭和45年度、スモンの厚生省研究費5,000万円認められる。 2.6 厚生省、井上ウイルス説断定は早すぎると慎重な見解を示す。 2— 神戸市休職条例改正（スモンなどの休職期間を現行1年から1年半に） 3.31 衆院予算委員会でスモン対策をとりあげる。 4.6 衆院予算委員会でスモン問題に関して質疑が行なわれる。 5.11 衆院、社労委で、スモン問題を取り上げる。参考人として、患者代表及び、調査研究協議会々長出席。 5.19 大阪府スモン調査研究会発足する。	1.18 徳島支部結成される。 1.19 徳島支部県へ陳情書を出す。 1— 東北スモンの会連合会初会合（初のブロック患者の会ー東北リハビリセンターの設立を働きかけていく。） 1.30 スモンなどの休職期間を結核なみに延長を要求（神戸市） 1.30 NHK、お茶の間訪問でスモンの会等をとりあげる。 ◎ ウイリス感染説で患者苦境に（村八分、家族八分等の感染差別を心配し、各地のスモンの会で意見交換が行なわれる。） 2〜 雑誌婦人公論2月号に、特別企画"現代の奇	1.21 チクロ追放消費者大会開催される。 1.26 新潟水俣病共斗会議結成大会開催される。 2.1 チクロ入りジュース類の販売全面禁止。 2.9 森永砒素ミルク中毒事件、徳島地裁で差し戻し裁判はじまる。 2.9 チクロメーカー6社、明確な根拠なく禁止をしたとし、国を相手に損害賠償請求。 3.8 新潟にて胎児性水俣病の疑いのあった4才の女児、やっと胎児性水俣病と認定される。 3.22「カネミライスオイル被害者を守る会」全国連絡会議結成大会。 3.24 カネミ油症事件の責

		2.14 新大・椿、ニコチン酸とアデノシン三リン酸の大量点滴がスモン治療に効果ありと発表。（44年9月～12月全国24ケ所の病院で臨床実験の結果、この療法をうけた319人のスモン患者のうち166人に効果がみられた。） 2.16 スモン調査研究協議会病原班会議開かれる。 • 東大医科研・本間「スモン病患者から異常に多いマイコプラズマを発見」と報告。（スモン患者の緑舌が緑のう菌によるのではないかという一医師の疑いから本間教授に分析を依頼） 2.22 第6回脳のシンポジウム、スモンについての初の公開討論が行なわれる。 名大・安藤、中部地方の3つの病院で他の病気で通院中の患者の中からスモン患者多数発生したと報告。 名大一内・祖父江「臨床医学的にみたスモン病はかりに感染症と考えても結核のように感染性のある開放性患者と感染性のない非開放患者と考えた		病、スモン病”が掲載される。 2.10 井上スモン新ウイルス発見と感染説についての公開状を出す。（兵庫スモンの会） 2.12 全国スモンの会臨時理事会（”ウイルス感染説発表をめぐって”一反論の掲載をマスコミに要望）。 2.17 全国スモンの会代表者、朝日新聞内政部長と話合いを行う(ウイルス感染説の掲載をめぐって)。 3～ 宮城患者同盟後援会できる。（支援組織） 3.2 全国スモンの会代表者、朝日新聞出版部と話合う。 3.13 全国スモンの会、保健社会研究班の設置をスモン調査研究協議会と厚生省に要望。 3.21 朝日新聞に、スモン病は放置できぬ社会災害、患者の保護体制を立てよの記事が出る。 3.30 水野茎子著「静かなる闘いの日々」出版される（スモン闘病日記）。 4.17 東京支部が結成される。東京都へ専門病院の設立を含む要望書を提出する。	任者として、カネミ倉庫の社長、工場長起訴される。 3.26 チクロ追放消費者会議開催。 4.10 田子の浦港のヘドロ問題化。 4.30 水俣病を告発する会、補償処理委員会の水俣病処理に抗議し、チッソ水俣工場に対しデモをかける。 5.14 東京都下の2つの乳業工場で、ペニシリンの残留発見され問題となる。 5.14 水俣病患者上京し、水俣病補償処理委員会に抗議のため、チッソ本社前ですわりこみ開始。 5～ 東京新宿で自動車排ガス中鉛の人体蓄積問題となる。 5～ 静岡県にて、日本茶に許容量の10倍以上の有機塩素系殺虫剤の残留DDT検出の件判明し、問題化。 5.25 水俣病を告発する会、補償処理委員会の補償案に反対し、厚生省内会議室を占拠し、逮捕される。 6.7 ”ベーチェット友の会”結成。 6～ 森永ミルク中毒のこどもを守る会、カネミ守

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1970（昭45）		方が説明しやすい」と報告。 東大神経内科・井形、朝日新聞で埼玉のスモン患者の発生は接触性伝染では説明できないと語る。 3.19 スモン調査研究協議会第2回病理班会議にて、熊大病理・武内、スモン病患者の腸粘膜上皮よりウイルス発見と報告。 3.30 スモン調査研究協議会第2回総会開かれる。 ・公式機関による初の全国実態調査結果発表（全国の受診患者数は4,280人、このうちスモンと断定されたのは2,669人特徴的なことは①老令の婦人に多く成人病の性格が強い、②全都道府県で患者がでている、③患者がふえる傾向にある。） ・名大祖父江、愛知県下のスモン患者の調査から全国には1万人以上の患者がいると推定。 4.8 慶大・中沢、日本神経学会総会にて「スモン患者の糞便から新しいウイルスを分離、ハツカネズミの赤ちゃんへの接種実験でも消化器系障害をと		4.19 新潟支部が結成される。 4.23 患者の会代表、東京都知事と会い、医療費の軽減、専門病院、神経内科センターの設立を要望。 4.25 愛知支部が結成される。 5.2 岩手県スモンの会（岩手支部）が結成される。 5.9 スモン苦に患者自殺（38、一大阪） 5.18 全国スモンの会支部代表者会議。 5.23 北海道支部結成される。 5.30 大学祭で、スモンをとりあげ、患者・研究者参加のシンポジウムが開かれる。（東大・五月祭） 6－“スモンの広場”第2号刊行される。 6.7 青森スモンの会結成される。 6－ 岩手スモンの会、岩手県医師会、国保連合会に、倫理的な医療及び薬剤の保険適用について要望書を出す。 6.26 長野県スモンの会、県議会に対し、結核なみの医療及び専門病院の設	る会との共闘会議結成を可決。 6－ 種痘ワクチン禍拡大、死者全国各地でわかる。国の救済措置急ぐと厚相語る。地方自治体では、大阪、東京、宮城などが相次いで種痘の全面的中止延期を決める。 6.22 東京都衛生局、2日間の摘発で、1万4千余のチクロ食品を回収。 6.28 東京水俣病を告発する会結成。 7.29 日本薬学会で、乳首などの食品関係に使われているゴム製品の添加物はほとんど野放し状態との報告。 7.30 種痘禍などの補償決まる（死亡最高330万円、後遺症130万円以上）。 7－ ロサンゼルス型、光化学スモッグが日本にも発生。自動車排気ガスに主因。 8.31 最高検、札幌医大、和田教授（心臓移植）の不起訴決定。 9.18 牛乳の残留ペニシリンが市販牛乳の半分に及んでいることが判明し、

もなう全身感染症を示した」と発表。
4.20 岡大三内・大藤、高濃度の乳酸菌スモン病治療に効果ありと発表。
6.22 東大・井形、スモン病の疑いのある患者十数人を診察した結果、非スモンと診断、現在このような症状をもつ患者は全国に２００人余りいると予想されるが症状があまりよく似ているのでスモン患者とされている例が多いと思われると語る。（朝日新聞）
6.25 京大ウイルス研・東、スモン病の新ウイルス電顕写真で確認、「スモンウイルス」と命名。
6.29、30 スモン調査研究協議会開かれる。
- 国立衛研・池田、スモン患者の尿からかなりの量の鉄と亜鉛を検出したと報告。
- 東大薬学・田村、スモン患者の緑舌から多量の鉄と亜鉛を検出。緑舌の正体をキノホルムと鉄の化合物と断定。
- 京大・東、スモンウイルスについて発表。
- 東大・本間、スモン患者から検出したマイコプラズマをモルモットに注射

9.7 厚生省、薬事審答申に基づきキノホルムの販売、使用を一時中止するよう全国に指示。
9.8 厚生省、日本製薬団体連合会に、「すでに出回っているキノホルム製剤の回収は指示しない」と明示<読売>
9— 秋田県、スモン患者に見舞金１万円を予算化。
10— 岡山県、スモン治療研究用薬剤の配布を行なう。

置を含むスモン対策についての要望書を提出。
7.6 北海道支部、道議会にスモン対策について請願書提出。
7.10 スモン苦に患者自殺（８０、女ー秋田）
7.23〜29 "光と陰"（スモン患者の闘病生活）のパネル展が東京で開かれる。
8.7 神経病総合センター設置促進講演会（東京進行性筋萎縮症協会・全国スモンの会主催。）
9.1〜14 "光と陰"のパネル展（神戸）
9.8 東京都薬剤師会、キノホルム製剤の返品を決定。
- 一部の製薬会社、キノホルム製剤の回収指示、生産中止へ踏みきる。
9.19 京都支部結成される。
9.25 京都支部、府議会へ請願書提出。
9.26 東北スモンの会連合会、東北スモンリハビリセンターの設立について宮城県に嘆願する。
9.26 全国スモンの会支部代表者会議（キノホルム原因説が確定した段階で訴訟を考える一結論）
10.10 広島スモンの会、県議会に対し、社会調査

問題化。
9.30 キューリ、乳製品で問題となった有機塩素系農薬ディルドリン、大阪府下のジャガイモに高い数値で検出問題化。
11.6 静岡県田子の浦港ヘドロの件で知事や企業に対し住民ら訴訟提起。
11.16 カネミ油症被害者３００人、北九州市と会社を相手に９億７千万円要求の民事訴訟を提起。
11.21 イタイイタイ病訴訟、結審言いわたし。公害訴訟としては異例のスピードと話題。
11.28 チッソ株主総会、水俣の患者をはじめとする一株株主多数の入場により大混乱。

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1970（昭45）		したところモルモットは死んだと報告。 • ウイルス説、マイコプラズマ説いずれも病気との因果関係の証明が不十分で結論は持越し。 • 緑舌がすべてキノホルムの副作用によるものか、又、尿中の重金属とくに鉄と亜鉛との関係が問題となる。 • 8ブロック会議の設置、研究班員の大幅増加をはかる。 7. 岩手 医大・鈴木、高圧酸素療法でスモン患者8割軽快と発表。 8.6 新大・椿、新潟県衛生部を通じて厚生省に対し「日本薬局方整腸剤キノホルムの使用量とスモン発病率との間に明らかに相関関係がある」と報告。 8.9 岡大・緒方、スモン家族集積性一般の6倍、伝染病なみと発表。 9.3 日本ウイルス学会「スモン病特別シンポジウム」を開く。ウイルス説強調。 9.4 新大・椿、厚生省を通じてキノホルムの副作		班を設け患者の経済的救済に本腰をと要望。 11～ 佐賀県スモンの会結成される。 11.29 神奈川支部結成される。 12.5 全国スモンの会支部代表者会議。 12.11 長野県スモンの会、県議会に対し、見舞金制度、対策費（研究費）の増額を要望。 12.14 全国スモンの会、厚生大臣宛、要望書提出（スモン対策ー治療法の研究継続）	

		用を報告した外国文献のコピーを数種類入手したと発表。（一つはチバ製薬の本社・副作用研究室が1943−69年に欧米で発表された副作用研究論文56編をまとめたもの、一つは動物実験論文） 9.5　新大・椿、日本神経学会関東地方会にて、スモン病と整腸剤キノホルムとの間に相関関係ありと発表。 9.8　スモン調査研究協議会、キノホルム服用との関係でスモン患者の追跡調査開始。 9.16 大阪府のスモン研究協議会、臨床班会議開始、スモン病とキノホルムとの関係を検討。（通院、入院中の患者158人を対象とした面接調査の結果、23人がキノホルムを全く服用せず、59人は使用したかどうかわからない、76人は服用） 11.7　東大神経内科・豊倉、井形「医学のあゆみ」にキノホルムの動物実験結果発表。 スモン病類似のマヒ出現。 11.11　国立呉病院・大村、キノホルムは主原因ではないという調査結果まとめ、近く厚生省に報告。		

年	医学事項		行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
	患者発生の経過	調査研究の経過			
1970（昭45）		（41年1月から45年7月までの入院患者234人についてキノホルムの関係調査。キノホルム服用不明の127人を除いた107人について、下痢がはじまる6ケ月前にキノホルムを服用した人は78人（72%）、全く服用しなかったのは29人（28%）） 11.13.14. スモン調査研究協議会開かれる。 • キノホルム服用者の追跡調査結果発表（45年9月～10月全国主要病院890人のスモン患者を対象とした結果、調査ができた742人中、確実にキノホルム服用し発病したもの610人、残りは不明） • この結果について合同会議では、 ① 約15%飲んでいない人がスモンにかかっている事実がある以上、キノホルムを犯人ときめつけるわけにはいかない。 ② だが飲んでいないと答えている人たちは、自分で気づかずに何らかの薬に含まれていたキノホル			

		ムを体内に摂取している可能性は残っている。 ③ キノホルムはスモンの第一次原因でなく、何か第一次原因を助長する作用をしているのかもしれない。 • 東大・田村、豊倉ら、キノホルム説裏付ける動物実験結果報告。 • 京大・井上"井上ウイルス"、久留米大・新宮"エコー21型ウイルス"について発表。 他大学の追試ではスモンの病原体としては否定的な結果が強かった。			
1971 (昭46)	• 45年9月7日以降の新患発生は激減、キノホルムを用いないで発症している例が46年1月31日迄に9例(岡大小坂7例、名大祖父江2例)とすれば、他の原因も疑いなしとはいえないと楠井が3.1の調査研究協議会で結論。	1.14 新大・椿、ドイツで45年8月発表された論文よりスイスにスモン患者がいることを発見し、確実にスモン患者であることを確認したと発表。 2.27 東大疫学・中江、神経内科・井形、スモンとキノホルム数量的に密接な関係ありと「医学のあゆみ」に発表。 2.26 大阪府スモン調査研究協議会はサルを使った動物実験でキノホルム説に対する疑いを深めたと発表。 2.27 岡大・島田、キノホルム使用中止後も岡山県内を中心に6人の新患者	1— 厚生省、昭和46年度スモン調査費5,000万円、特別調査費5,500万円をスモン対策にあてる。 2— 衆院予算委員会で、スモン問題をとりあげる。	1.1 大分県スモンの会結成される。 1.30 全国スモンの会支部代表者会議 (訴訟問題等について話合う)。 3.1 大分県スモンの会、県に対し要望書を提出。	1.26 川崎にて公害認定患者に8人目の死者。 1.29 四日市、石原産業の硫酸たれ流し、国会質問で明白になる。 1— 東邦亜鉛製練所のもと女子従業員遺体から多量のカドミウム検出され問題となる。 2— 厚生省、医薬品安全対策の一環として"調剤検査センター"を設置のこと決定。 2.16 サリドマイド禍の損害賠償訴訟に、被告の国、会社が和解案を示す。 2.17 サリドマイド裁判の審理が始まり、原告側証人が家族の苦痛、被告側

年	医学事項 患者発生の経過	医学事項 調査研究の経過	行政事項	社会および患者の動向に関する事項	備考（公害・薬害・医療事故等）
1971（昭46）		が出ていることを発表。 3.1.2 スモン調査研究協議会開かれる。 • 疫学、臨床両班「スモンとキノホルムの因果関係について」の調査結果を報告（キノホルム販売、使用中止になった45年9月以降はスモン患者の発生が全国的に激減－19人－、しかしキノホルム未服用のスモン患者も確実に存在）。 • 疫学班から「キノホルムの1日投与量と投与日数はスモンの発病率に比例し、1日投与量が1g越すとスモンの発病率がきわだって上昇する」と報告。 • 東大眼科・石川、有機リン系農薬を動物に与えると目に起こる障害がスモンの症状とよく似ていると報告。 • 保健社会学グループ、埼玉県戸田、蕨、川口地区と岡山県井原地区におけるSMON患者の生活実態調査を報告。 3.26 九大・神経内科（黒岩教授）、福岡市のある地域内での開業医、病院のキノホルム使用量とス			の無責任を訴える。 2.27 厚生省、原爆症に初の"死後認定"。 3.15 四日市にて公害認定患者に46人目の死者。

		モン発生状況を長期間、組織的に調べた結果、スモンはキノホルム中毒であると断定。			

参考文献

医学事項欄	行政・社会・患者欄	備考欄
日本内科学会雑誌 臨床神経学 日本伝染病学会雑誌 日本公衆衛生雑誌 日本衛生学雑誌 ウイルス 精神神経学雑誌 日本医事新報 医学のあゆみ 日本医師会雑誌 内科 最新医学 日本臨床 総合臨床 治療 薬物療法 岡山医学会雑誌 感染症学雑誌 スモン調査研究協議会　抄録集 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞	日本医事新報 山陽新聞 中国新聞 朝日新聞 病床たより（宮城県スモン病患者同盟） スモンの広場 毎日新聞 スモンの広場ー患者家族交換情報 スモン対策について（岡山県） 長野県スモンの会々報 医事日報 神戸新聞 河北新報 読売新聞 週刊朝日 日本経済新聞 新潟日報 サンケイ新聞 山形新聞 市民情報（神戸市、市民同友会） 婦人民主新聞 西日本新聞 おたより（全国スモンの会兵庫支部） 全国スモンの会東京支部会報 安らぎへの道（岩手県スモンの会） 会報（全国スモンの会新潟支部） 青山（広島県スモン友の会） お知らせ（全国スモンの会京都支部） 兵庫県スモンの会第1回総会資料	富田八郎『水俣病』 熊本大学『水俣病』 萩野　昇『イタイイタイ病とたたかう』 富山県イタイイタイ病対策会議『イタイイタイ病三井金属を裁く』 四日市公害訴訟を支持する会『記録公害』 坂東克彦「新潟水俣病裁判斗争の経過」 新潟水俣病弁護団『新潟水俣病裁判第一集』 朝日年鑑(昭和40年版～　) 毎日年鑑(昭和40年版～　) 谷みゆき編『戦後医療運動史年表1・2』 飯島伸子編著『公害および労働災害年表』 勝本清一郎他編『近代日本総合年表』 水俣病を告発する会「告発」 四日市公害とたたかう市民兵の会「公害トマレ」

医学事項欄	行政・社会・患者欄	備考欄
	準備会ニュース（神奈川スモンの会） 東京タイムズ 赤旗 朝日ジャーナル 釧路新聞 徳島新聞 信濃毎日新聞 公明新聞 婦人公論 週刊時事 北海道新聞 民社新聞 スワン（全国被災者同盟）	富山県イタイイタイ病対策会議「鉱害裁判」 新潟水俣病弁護団「新潟水俣病弁護団ニュース」 熊本日々新聞 西日本新聞 中日新聞 富山新聞 新潟新聞 朝日新聞 読売新聞 日本経済新聞